

# あなたと 青山学院



地の塩、世の光  
The Salt of the Earth, The Light of the World

青山学院スクール・モットー

30万人の卒業生と母校をつなぐ「絆」

October 2013 No.13

今号の聖句

わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。ローマの信徒への手紙 第5章3節後半-4節  
And not only that, but we also boast in our sufferings, knowing that suffering produces endurance, and endurance produces character, and character produces hope. 第5章3節後半-4節

## 新旧 校友会会長 対談



細田前会長(左)と相川新会長

## 守るべきは守り、 変えるべきは変えていく ニバーの祈りを胸に 校友会活動を進めていきたい

6月22日(土)に開催された校友会の2013年度定例代議員総会で細田治前会長が退任され、相川和宏新会長の就任が承認されました。この2年間、校友会はどのような活動方針に基づいて運営され、どのような成果を収めることができたのか。また、今後はどのように進んでいくべきなのか。新旧校友会会長に、校友会活動の意義と展望、それぞれの青山学院への思いを語り合っていました。

### 青山学院の慈しみに恩返しを

**細田**：2年間という極めて限られた期間でしたが、多くの方からお話を聞き、私の思うところを述べる中で、ずいぶんと校友会の在り方や私の考え方をご理解いただけたような気がいたします。新会長には、これから先の青山学院がどうなっていくかも含め、校友会のさらなるステップアップに向け、ご努力をお願いします。

**相川**：私が校友会と関わり始めたのは、60歳を過ぎてからです。母が亡くなり、一家の最年長者となって、今までやり残したことをやっていたいと思いました。その一つとして、母校の青山学院に恩返しをしなければいけないという気持ちがあり、6年前に第14回大学同窓祭実行委員長をお引き受けし、続いて、大学の後援会会長を2期2年間、さらに大学部会部会長を1期2年間務めてきました。

そして、今度は校友会会長です。32万人の校友の舵取りという大役にいささかためらいを感じましたが、いろいろな方に「相川がやるのなら手伝うよ」とおっしゃっていただき、お引き受けする決意をしました。

**細田**：相川家は、まさに青山ファミリーだと聞いています。

**相川**：私は中等部から青山学院に入り、高等部、大学経済学部と進みました。私の娘ふたり、また弟とその子どもも、初等部からお世話になっています。考えてみると、私自身や子どもたちがここまで来られたのも、青山学院で慈しみを受けたおかげと思っています。

### 冠奨学金をとおして母校に貢献を

**細田**：私が活動方針として掲げたのは、母校への貢献

と愛校心の醸成です。母校への貢献は、精神的に学校をバックアップするとともに、経済的に何が出来るかを考えることです。このときに青山学院を愛する気持ちがないと貢献も何もあったものではありません。そこで、自分が青山学院の卒業生としての誇りを持ち続けられるよう、愛校心の醸成をもう一つの活動方針とし、具体的な項目を掲げました。

そのいくつかは実践できたのではないかと考えています。例えば、校友会に対する理解を得たいと考え、校友会の歴史と会則をしっかりと理解していただきたいと繰り返し申し上げてきました。その結果、きちんと会則を読んでいただけるようになりました。ただ、理念を十分にご理解いただくまでには至らなかったかもしれません。相川会長には、母校への貢献の中でも特に経済的な支援について校友の皆さまへの説明を行っていただきたいと思います。

**相川**：母校への貢献については、すでにいくつかの支部を訪問し、冠奨学金への寄付のお願いをしています。なぜ冠奨学金かという、会員の皆さまの中には、使い道が分かりづらいために維持協力会への加入を見合わされている方が多いのではないかと考えるからです。しかし、年間15万円以上の冠奨学金であれば、どのような学生に対して寄付できるか指定できます。特定のクラブとか、支部のある地域の学校出身の学生を指定して寄付することもできるのです。それを第一歩とし、そこから年1万円の維持協力会に移行していただいてもいいのではないかと訴えています。

**細田**：維持協力会の会員を一人でも増やしたいという私の声を受け取っていただき、非常にありがたく思います。基本的には維持協力会と奨学金とは違う性格を持っていますが、これからの青山学院

を考えたときに、校友会が広く奨学金を集めていく意義は極めて大きいと思います。生活困窮のための奨学金ではなく、生徒・学生が本当に学びたいことに対して学校が奨学金を出していく。それを校友会がバックアップしていく。もう今までの青山学院では通用しない時代が来ており、このようなスカラシップは、極めて大きな魅力づけになるだろうと思います。

### 校友会に対する理解を深める

**細田**：2年間の任期のうち、1年目は前会長が立てられた方針を引き継ぎ、実質的に私が立てた方針で活動したのは2年目の1年間です。

**相川**：私も、1年目から独自に活動方針を定められたとしても、同じようになっていたと思います。したがって、私は自分の意志として、細田前会長の方針を具体的に進めていきたいと考えています。先ほどの維持協力会をはじめとした母校への貢献に加え、就職支援など在校生に対する支援も引き続きお願いしていくつもりです。また、校友会120周年記念事業も大変意義があるものです。さらに、校友会の会費値上げも早い時期に真剣に考える必要があると思っています。

**細田**：2代院長の本多庸一先生が学院の組織になぞらえ校友会の礎を組織されたときの理念は、現在の校友会に引き継がれています。これは、学院ホームページにある「地に播かれた三粒の種」などを見ていただければ、よくご理解いただけると思います。中には時代が違ってしまう方がいらっしゃるかもしれませんが、歴史をもう一度振り返っていただき、真摯な会話を繰り返す中で、必ず青山学院で学んだものをご理解いただけるものと信じています。

(2面に続く)

## CONTENTS

校友会	新旧校友会会長対談	1
校友会 学校法人	新旧校友会会長対談・今号の聖句	2
学校法人	青学ニュース	3
学校法人	Useful Information	4
校友会	あのことろ・そして・いま/日本テレビ放送網報道局政治部 小栗 泉さん	5
校友会	支部ニュース	6

校友会	駅伝応援マップ	8
校友会	アイビーグループニュース	10
校友会	部会・同窓会ニュース	12
学校法人	青学探訪「資料センター所蔵資料 紙上展示室 第2回-思い出の「卒業アルバム」-	14
学校法人	青山学院からのお知らせとお願い	15
校友会	校友会本部	16